

令和6年度 第2回仙台市学校給食運営審議会分科会会議録

- 1 日時 令和7年3月18日(火)
18時00分開会
19時45分閉会
- 2 場所 仙台市役所上杉分庁舎12階 教育局第1会議室
- 3 出席委員 山城秋美委員、加藤孝委員、中村晴美委員、鈴木浩志委員、瀬戸美那子委員
- 4 事務局職員 渋谷総務企画部長、加藤健康教育課長、豊島給食管理係長、丸山給食事業係長、今野指導主事、佐々木主査、柴崎主査
- 5 説明員 丸山給食事業係長
- 6 定足数の確認 議事に先立ち、事務局より、本日の出席者が5名であり、「令和6年度仙台市学校給食運営審議会分科会の運営について」に定める定足数を満たしているため、本会議は成立している旨報告がなされた。

7 議事「仙台市学校給食施設基本方針（中間案）からの修正の方向性について」

- | | |
|------|---|
| 会長 | 議事「仙台市学校給食施設基本方針（中間案）からの修正の方向性について」事務局から説明願う。 |
| 事務局 | (資料1～3説明) |
| 会長 | 事務局からの説明について、皆様から何かご意見・ご質問等はあるか。 |
| 加藤委員 | 本校は本日卒業式であった。6年生が門出の言葉の中で、給食が楽しみだったと話していた。やはり、学校給食は子どもたちの中で心に残るものの一つだと本日感じていた。
パブリックコメントのNo17に、単独調理校と給食センターのフードロスがどちらが多いか、といった意見があったが、給食センターと単独調理校の残食率が分かれば教えていただきたい。 |
| 事務局 | 例年、教育委員会では残食率の調査を行っており、今年度の調査では、単独調理校は平均約10%前後、給食センターでは平均約15%前後で、給食センターの方が若干高い状況である。単独調理校の残食率が低い要因はいくつかあると思うが、単独調理校では各学校に栄養教諭・栄養士が配置されており、給食時間での食育指導や、配食時の量をきめ細かに調整する等の工夫が反映されていることが考えられる。
こういったことから、給食センター対象校でも食育指導は重要であると考えており、学校訪問の機会を増やしたり、単独調理校で行っている取組みを給食センター対象校に反映させる横展開の可能性等について、引き続き検討してまいりたい。 |
| 瀬戸委員 | 資料2のパブリックコメントのNo16の意見だが、「単独調理校ではもしもの時は、児童生徒の保護者に募集をかける」とあるが、この一文を見て少し無理があると思った。今は両親共に仕事をしているご家庭が多いので、平日に呼び掛けても集まらない可能性が高い。PTAでも平日にボランティアを募集してもなかなか集まらないのが現状。夏祭りやバザーは何か月も前から告知をして土曜日にも行っているので、集まってスタッフをしてくれるが、平日に急に募集しても集まらないのではないかと考えた。 |
| 加藤委員 | 資料3の学校給食に関するアンケート調査結果について、まとまった状態で記載されているが、小学校2年生の児童と中学校2年生の生徒の考え方や思いは違ってくるのではないかと考えた。学年別のアンケート分布が分かれば、教えていただきたい。 |

事務局 各質問に対し、各学年毎にどの回答が多かったのか、回答割合について調べたところ、1問目の「どうすれば、もっと学校給食が楽しくなると思いますか?」の質問について、「友人や皆と食べる」や「会話をする」といった環境面に関する回答割合は、小学校低学年が高い傾向にあった。「献立、味付けを工夫する」といった給食の中身そのものに対する回答割合は、学年が上がるにつれて高くなる傾向が見られた。小学校低学年は友人と会話をしたり、給食の時間をどのように過ごすのかといった面、一方、中学生は食べる内容そのものを特に気にしているという結果が伺えた。

2問目「学校給食で大事だと思うことや、役立っていると思うことは何ですか?」との質問について、「健康になる・元気が出ること」「好き嫌いが無くなること」の回答割合は、小学生が高い傾向であった。一方で、「様々なことを学べること」「午後の活動に集中できる・頑張れること」の回答割合は、小学生よりも中学生が高い傾向にあった。

中学生は、学年が進んで食育に関する学びが深められていると考えられることや、午後に部活動があるので、そういった面でのエネルギー源として捉えている傾向があるのではないかと考えている。

会長 今回の質問と回答を伺い、実際、学校給食は教育の一環ということで、身体の栄養の部分もちろんであるが、心の部分、そしてそこから学ぶ自信につながることも読み取れる有効なアンケートで、今後反映していただきたいと感じている。高校生になると食育の機会が減るとよく聞く。自立していく中で、小中学校での食育はとても重要な意義があるとアンケートから感じる事ができた。

このアンケートについて、目的や対象校数、回答率についてご説明いただきたい。

事務局 今回、学校給食に関する方針を定めるに当たり、実際に給食提供を受けている児童生徒達の意見を聞くことで、今後の取組みにどう活かせるかを検討するために実施したものである。基本方針の内容そのものを児童生徒に対してお聞きしても難しい部分があると思うので、学校給食の充実といった観点から2点、楽しみと大事だと思うことに絞って意見をいただいたところである。

対象校については、健康教育推進校5校に対し、調査をしている。内訳は小学校3校、中学校2校、指定学年の計5クラスに調査を実施した。対象の児童生徒数は合計133名のところ、114名から回答をいただいております、回答率は約85%であった。

会長 高い回答率だと感じる。このような調査は、今後も継続して実施する予定はあるか。

事務局 今回実施したアンケートは、今後の取組みを検討するために実施したものであるが、アンケート調査の結果から、児童生徒の給食に対する意識や思いといった実態を、ある程度把握できたのではないかと考えている。

今後の献立作成や残食を減らす取組みにも活かすことができるのではないかと考えているため、今後も取組みを検討する上で、こういったアンケート調査についても、必要に応じて検討してまいりたい。

会長 保護者の委員の皆様からも意見や感想をいただきたい。

鈴木委員 パブリックコメントの結果を読むと、総じて自校給食の方が良いといったご意見が圧倒的多数だと思う。本校も自校給食の一つではあり、センター給食の小学校から自校給食の中学校に上がり、より温かくなった、美味しくなったという意見は多めに聞こえてくる気はするが、前回の分科会の中でも、センター給食が栄養価に劣るといったことや、美味しさに劣るといった話はなかったと理解している。そうなると、単純に自校給食の方がきっと良いだろうという決めつけになってしまっているように感じた。

センターではなく自校、というのであれば、給食費が今後20%~30%上がれば自校給食を残せるが、それでも自校を望むか?等、もう少し示せるものがあれば、出てくる意見も変わってくるかもしれない。

意見をくださった方に、事務局から個々に回答はするのか。

事務局	パブリックコメントについては、最終的にホームページに掲載するので、広くご覧いただくことができる。
鈴木委員	例えば国の方針として、給食は一律国費で実施する等、大きな方針が示されれば、その中でより地産地消等、特別色を出して欲しいという要望が出てくる可能性もあるが、今はそういったことを言っているわけではない。事務局の伝え方が悪いということではないが、前提が上手く伝わっていないのではないかと感じた。もう少し、こういったことでご意見が欲しいと、もし給食費が上がったとしても自校を進めたいという意見を貫くかは、聞きたいところではある。
事務局	給食センターに関する情報発信が十分ではない面もあるかと思う。提供温度に関することや、パブリックコメントの意見にもあったが、地場産物の取組みや活用率について。実は、地場産物の活用率は現在単独調理校と給食センターはほぼ差が無い状況である。そういった給食センターの取組みや魅力といった情報発信は、事務局としても今後強化していかなければならないと考えている。
瀬戸委員	私も資料2を読んで、給食センターは美味しくない、単独調理校はおいしい、といったイメージが根付いていると思った。 私自身、小1サポーターとして、学校で子ども達と一緒に給食を食べているが、給食センターの給食がおいしくないという感想は無く、野菜もたくさん入っており、栄養もバランスが取れているといつも見て思っている。 どうしても小学校1年生なので量が多く残してしまうことはあるが、配食の量を減らしたり等している。 自分の子どものことではあるが、苦手な家では食べてくれない食べ物でも、学校の給食だと頑張って食べると言う。みんなと一緒にだから、給食として出ているから食べないと、という意味があり、頑張って食べてくれるので、栄養が取れてよかったと思っている。給食があることにより、自分が苦手なものにも挑戦してくれる環境があることはありがたいと思っている。 資料2のパブリックコメントNo33について、この方は単独調理校の方だと思うが、地域の方との繋がりが強いようだ。畑仕事を教えてもらう等、地域との繋がりを全部無くす、ということはもったいないことなので、そこはぜひ残していただきたい。学校で調理して食べなくても、家に持って帰り調理して食べればそれで良いと思うし、地域との繋がりがなくなってしまうわけではないので、そこまで心配することはないと思う。地域の方々との繋がり方は、食だけでなく多様にあると思う。調理実習で子どもたちが作って地域の方を招いたり、お礼状を渡したり等、方法を変えて地域の方々との繋がりは今後も残していけるので、単独調理校が給食センターに変わるから悲しいということではないと思う。イメージが根付いてしまっているのだと思った。
会長	3年生でさつまいも、4年生でお味噌、5年生でお米といった取組みは、学校給食に限ったことではなく、地域の繋がりによるものではないかと思う。私が育ったところでは、学校全体と地域が繋がり、地域で子どもを育てるというイメージがあったので、実際、現在の学校現場の取組みを教えてください。
加藤委員	本校はセンター対象校であるが、味噌作りも行っている。本校では現在取り組んでいないが、米作りをして、自校給食の時は給食室にお願いして食べるといったこともあったが、センター対象校では、家に持ち帰って、家庭で味噌を食べてみたり、家庭科の実習の中で実際に米を炊いてみたり、味噌を使って味噌汁を作ったり、味噌を試みることもできるし、実際に行っているの、自校でなければできないとか、地域との繋がりはセンター対象校だとなくなってしまうといったことは決していない。 先ほどからあったように、センター給食の魅力が誤解されている部分が多いのではないかと感じている。子どもたちは卒業式の門出の言葉の中で、給食が楽しかったと言っているくらいなので、センター給食もとても楽しみで美味しく、子ども達の思い出に残るものであったと感じている。センター給食の魅力や工夫や取組みをもっと知っていただくことが必要なのではないかと感じた。

中村委員

単独調理校と給食センターで行っていることに大きな違いはないことをもう少し発信すべきという話もあったが、教員についても、単独調理校の方がおいしいとの思いを持っていると思われる。教員数も多いので、教員達にも理解を深めるために、例えば私が担当している学校給食部会も、もっと努力する必要があると、この分科会を通じて思った。

まず教員達の先入観を無くし、それぞれの実施方式の特色をしっかりと理解した上で、センター対象校であればこういったところを、単独調理校であればこういったところを活かしていこう、という意識を持つことによって、食育がより進むのではないかと思った。

今年度、給食管理係長に、中学校の学校給食部会で講話をいただいた。本市の学校給食がどのように生まれ、変わってきたのかをお話しいただいたが、先生方からは「全然知らなかった」や「給食にはこのような意味があったのか」といった意見があり、とても参考になった。分科会での資料は非常に貴重なものであり、こんなに行政の方々が私たちのことを考えて取り組んでくれているということを、教員達が理解し、それを活かした食育にすることが有効ではないかと思った。

会長

委員の皆さんの話を聞き、地域や保護者の方にどう理解していただけるのかを考えていた。

実際に取り組んでいる調理スタッフや搬入・運搬等色々な方が関わっていて、栄養教諭・栄養職員も惜しまず努力されているが、そういったことをもっと知っていただく必要があると感じた。

鈴木委員からご意見のあった、今後のシステムのことを見通して考えていかなければならないことであったり、瀬戸委員からご意見のあった、食べる力に繋がる環境作りを声として伺えた。こういったことをたくさんの方に伝えていくことに意味がある。

加藤委員、中村委員から実際の学校の様子を伺うことができ、先生方にも理解していただく、といった今まで気付かない視点もあったので、何ができるのかを考えて情報発信をしていく必要があるのではないかと考えている。

今はパブリックコメント等に関する意見としていただいたが、こうした貴重な意見を繋げていくことが大事だと感じた。

知っていただくというところでは、実際の温度や地場産物のこと、マニュアルがしっかりあることや熱中症対策、そういったところも併せて繋げていければと思う。

他に何か意見はあるか。

瀬戸委員

資料2のパブリックコメントNo19だが、センター対象校の方で、自分の学校が度々お弁当を作らなければならないことへの不満という印象を受けた。本校の先生に聞いたところ、4時間で終わるときは、なるべく給食を食べてから帰らせるようにしているそうだ。家で食べなくても良いように、きちんと栄養が取れるように、ということのようだ。わざわざお弁当を学校に持ってきてもらって、4時間授業の後にお弁当を食べて家に帰ることに対して何故？と書かれているが、両親が働いているご家庭が多いので、家で一人でお弁当を食べるよりは、学校でみんなと一緒に給食を食べる方が楽しいだろうし、みんなで食べる環境の方が子ども達にとっても良いと思うので、給食であってもお弁当であっても、ご飯を食べる時間が大事だということをもっと保護者の方にも分かってもらいたいと思った。

本校は隣が富谷市なので、子どもの習い事で富谷市や大和町では給食費が無料になっているという保護者の話が聞こえてくるが、この意見の方も、環境的に色々な話が入ってきやすいのではないかと思った。

会長
事務局

給食センターと単独調理校の給食の実施回数について説明をお願いしたい。

給食の実施回数については、食に関する指導の充実を図る観点で、教育委員会から各学校に対して示している実施回数の下限があり、それを下回らないように各学校で授業や学校行事等の教育活動を踏まえ、計画している。今年度の単独調理校と給食センター対象校の給食の実施予定回数については、学年毎に並べて比べても、大幅な違いはなかった状況である。

会長 実際調査をすると大きな違いはないということだが、イメージでバイアスがかかることもあると思う。こういった内容を伝えていく機会も大事だと思う。給食はエネルギーを充足するだけでなく、一緒に食べることや食育、教育の一環であることも含めて伝えていければと思う。今回パブコメが多かったと感じている。多岐に渡っており、今回の議論と直接的なものでないものもあるが、やはり興味関心があるということかと思うので、そこに丁寧に対応していくことが、今後さらに学校給食を知ってもらふ意義になるのではないかと感じる。

鈴木委員 今瀬戸委員の話にあった、富谷市や大和町が給食費を無償化できているというのは、市や町の人口規模に対して、法人税の入りが全然違うからだと思う。仙台市は面積もあり企業も多いが、人口も多いということが前提としてあるので、単純になぜ仙台市は、という議論ではないと思う。

会長 他に資料1～3についてご意見等は無いか。
(一同 意見なし)

会長 それでは、事務局から資料4、5の説明をお願いします。
事務局 (資料4及び5説明)

会長 事務局からの説明について、皆様から何かご意見・ご質問等はあるか。
中村委員 資料5の17ページ「6 学校給食の充実に向けて」の「(1) 食育の推進」について、今後親子方式等を進めていくに当たり、試食会や調理講習会の拡充とあるが、具体的にどのように行っていくのか教えていただきたい。

事務局 過去に、コロナの期間では試食会等を中止にしていた時期もあったが、現状、各給食センターでは、年に1回ずつ給食の試食や給食センターを見学する機会を設けている。その他、年1回、給食センターの調理実習室を活用した親子参加型の調理講習会も行っている。

中村委員 実施した後のアンケートでは、「給食センターの給食の味もおいしく、イメージが変わった」「家でも作ってみたい」との意見もあり、試食会、調理講習会での活動の場が、ご家庭でも活かされる取組みになっているのではないかと考えている。
事務局 そういった取組みが給食センターのイメージアップに繋がると思われるので、試食会等の回数を増やしたり、内容の充実を検討してまいりたい。

中村委員 試食会や調理講習会のアナウンスはどのようにしているのか。
事務局 市のホームページや市政だよりに掲載して周知を図っている。
会長 今お話いただいたように様々な機会で周知されると良い。他には何かあるか。
鈴木委員 コロナ禍では、近くの生徒が集まってお喋りしながら食べることをやめ、前を向いて黙食することが定着したと思うが、今でもそうなのか。一般的に外食する時は、衝立はあっても食べながら話すことを禁止しているお店は聞かない。いつまで黙食を続けるのか、給食の楽しさ、魅力を下げってしまう要因ではないかと思う。実際、私はこの歳になっても、給食をみんなと楽しく食べていたことが思い出深く記憶に刻まれている。今の子ども達はかわいそうだと感じている。どういう形で元に戻していくか、教育委員会としての考えはあるか。

事務局 コロナ禍以降では、前を向いて食べる学校がほとんどであると思う。学校からは、前を向いて食べることにより、子どもたちが集中して、時間がかからずにきちんと給食を食べることができるといった声も聞こえてくる。一方で、みんなで話しながら食べる共食についても、非常に重要であると考えている。教育委員会では、令和4年12月に「会話を行うことが可能」ということ、また、コロナの5類移行に合わせて、「前を向いて食べなくとも良い」ということについて、学校あて通知しており、グループを作って食べることも可能としている。ただ、学校現場の運用として、保護者のご意見、児童生徒本人の意向等、様々な状況があるため、すぐに戻すことは難しい部分もあるかと思うが、機会を捉えて共食の重要性等について学校に周知してまいりたい。

鈴木委員 給食を近くの友達と囲んで食べる機会がない児童生徒はそれを当たり前と感じてしまう。コロナ以前の給食の姿を経験した子どもから意見を聞いてみるとか、個々の学校の取組みになろうかと思うが、みんなで囲んで食べたい人とそうでない人を分ける等して、徐々にもとに戻していくということも考えられる。

- 加藤委員 小学校の色々な様子を見聞きしているが、新型コロナの影響は本当に大きかったと思う。黙食することが当たり前になっていた中で、それをすぐに戻せるのかといったことは、学校現場としても色々議論がある。学校としては、「黙食をしなければならぬ」といったことや、「話してはいけない」といった指導はしておらず、元に戻そうと模索している現状だと思っている。
- 会長 例えば、今まで一人で食べていたので、グループで食べた際に、他の子の咀嚼音が気になるといった子どももいると聞いたりする。例えば、月に1回あるカレーの日はみんなで食べよう、と取り組んでいる学校もあると聞いている。また、話していると時間がなくなることもあるので、残りの5分はもぐもぐタイムとして黙って食べるといった工夫もある。先生達も、コロナ禍は静かにするように、といった指導をする必要がなかったため、急に戻すことが不安という声もあるが、学校現場では共に食べたり、楽しい給食にするには、といったことを模索中である。
- 加藤委員 実際の学校の様子を教えていただき、このように様々な立場の方と話す機会も少ないと思うので、ぜひそういったことも発信できればと感じた。
- 「はじめに」の「(2) 学校給食の重要性」にもあるが、学校給食の重要性が多岐にわたって必要になっていると実感している。家庭環境によっては十分に食べられないお子さんがいたり、栄養的に偏っていると感じられるお子さんがいたり、孤食が悪いということではないが、子どもだけで食べている等、保護者が、自分の子どもが何を食べているのか十分把握しきれていない家庭環境もある。
- そういったことを踏まえると、子ども達の心身の発達に影響がないとは言えないので、生徒指導という視点でも、学校給食は重要なのではないかと思います、大きな役割を担っていると感じている。
- 健康寿命の視点で考えると、食育をしながら、食事内容をいづれは自分でセレクトして、どのようなものを食べていけば自分の健康に繋がっていくか、何を選べば良いか、先ほどこから給食センターと単独調理校でおいしい・おいしくないといった意見はあるが、それだけの視点ではなく、どんなものを食べていけば良いのか、小中学生からしっかりと育てていくことが食育の視点で重要だと思う。
- 学校給食の重要性はこれから多方面の視点において非常に重要と感じている。
- 会長 方針について、学校給食の重要性が明記され、それを踏まえてどのような取組みを行っているのか、というところをもっと発信していく必要がある。食品の選定については、少し誤解されている部分や周知されていない部分もあるため、こちらも丁寧に説明していく。仙台市はマニュアルも充実しているため、それに沿ってきちんと運営しているということも伝えていければ良いと考える。学校給食の充実に向けてというところで、具体の検討事項が説明されており、分かりやすい内容となっていると思う。
- 資料4、5について皆様、よろしいか。
- (一同 意見なし)
- 会長 それでは、資料全体を通して、意見や質問等はあるか。
- (一同 意見なし)
- 会長 それでは、本日いただいたご意見を基に、事務局と私で最終調整をし、分科会の案として審議会に報告したいと思う。予定では分科会での議論は本日で終了となるが、各委員においては、様々な観点からご議論いただき、また、円滑な進行に協力いただき感謝する。最後に、各委員から、これまでの議論を通して一言ずつ感想をお願いしたい。
- 加藤委員 日々、学校給食にお世話になっており、振り返ってみると、これまでは単に食べていただけ、おいしい、美味しくないという視点で見ていたが、自分の身体を健康にするためにはどういった視点で、どういったものを食べれば良いのか、改めて考える良い機会になった。さらに子ども達の食育をさらに進めていくにはどうすれば良いか、保護者や地域の方々にどう伝えていけば良いか等を考える良い機会になった。
- 中村委員 この分科会に出席する度に、給食1食にどれほどの方々のご苦労と様々な工夫があるのかを考えるようになった。自分だけにこのような機会を与えられるのはもっ

たいない。発信する力を持っている教員も、単独調理校、給食センターともに工夫して思いを込めて作っているということを学び、伝えていくような機会があれば良いと思うし、私自身、給食部会長の立場としても、子どもたちのために努力していきたい。

鈴木委員

非常に貴重な機会であった。この場に来るまでは、単独調理校の方がおいしいと思っていたが、様々な情報を取り入れる機会をいただき、考え方も変わった。以前の私のような考えを持つ方が多いという現状も改めて分かった。文字では見ないこともあるので、データや取組みを分かりやすい写真やイラストで伝えるとより分かりやすいと感じた。また、学びのコミュニティ推進事業に携わっており、その活動において寺岡・紫山地域で芋煮会や餅つき等、食を通してコミュニケーションを図る取組みを行っている。ここで得たものを周囲に広めていきたい。

瀬戸委員

これまでは給食についてここまで考えることはなかったので、良い機会を与えてもらったと思っている。分科会に参加させていただき、自分の子どもの給食について考える機会をもらえた。私も、給食はおいしいと周囲に伝えていきたい。自分たちが子どもの頃は4～5人のグループを作って給食を食べていたが、現在は皆前を向いて食べており、集中して食べることで早く終わるメリットはあるが、共に食べる時間があると、子どもたちにとってもっと思い出に残るのではないかと思った。

会長

私自身、これまでの分科会の経過を読ませてもらったが、とても丁寧に進められており、貴重な機会を与えていただいたことに感謝する。パブリックコメント結果を見ると、給食についての関心が大きいと感じた。小学校と中学校は心身が発達する重要な時期であるので、生涯の身体作りの基礎として慎重な議論がなされていることを、より多くの方に伝えていきたいと感じている。給食は、栄養の確保、食育の推進、健康習慣の形成、地域との連携、社会性の育成等、様々な意義や課題があるが、今後の状況を見極めながら何が効果的かというところを検討しながら、また、持続可能なものとして多くの方に理解いただけるように進めていければと思う。児童生徒への教育の一環として、給食の重要性を様々な機会に発信していただきたい。未来を担う子どもたちの夢が叶えられる、自信につながるような学校給食を提供できる環境を整えてほしいと願う。委員の皆様と事務局へ御礼申し上げる。

会長
事務局

それでは事務局に進行を戻す。

事務局より、今後のスケジュールについて説明する。

今回は、方針の答申案の審議を行うため、3月21日（金）に学校給食運営審議会を開催予定である。審議会では、本日お示しした方針の修正案の他、本日のご意見とそれを踏まえた対応の方向性を追加でお示しし、ご審議をいただく予定であり、引き続き方針の策定に向けた調整を進めていく。

今回の審議会で答申案の議論が終了する見込みのため、分科会での議論も本日で終了となる予定である。分科会委員の皆様には、昨年度より本市の学校給食のため、様々な観点からご意見をいただき、感謝申し上げます。

以上をもって、令和6年度第2回仙台市学校給食運営審議会分科会を閉会する。

以上

令和7年 5月 2日

署名委員 仙台市学校給食運営審議会分科会会長

山城 秋美

仙台市学校給食運営審議会分科会委員

中村 晴美